

科目名	世界の歴史と文化 ー西洋の古代・近代・現代、および、各時代の文化ー			ナンバリング	GEN114	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	野村光義	担当教員					

授業の概要	この授業では、世界の歴史と文化のうち、西洋の歴史と文化について講義する。古代・近代・現代の各時代区分において特筆すべき歴史的出来事とそれに関連する文化を解説していく。特筆すべき出来事の多くが戦争や権力闘争、革命であるということは、これからの若者である諸君たちが歴史を学び、かつ歴史から学ぶ必要性を意味しているといえる。歴史はいわば「反面教師」である。古代ローマには「ローマの平和（パクス・ローマーナ）」と呼ばれる時期も見受けられるが、他のほとんどがよくも悪くもドラマティックな内容、その激動の歴史を学んでいきたい。また、文化は叙事詩や悲劇・史劇などの文学、交響曲「英雄」や「新世界より」や「革命」などの音楽を紹介し、実際の英雄や新世界や革命との関連づけをおこなう。さらに、歴史ものの映像作品をできるだけ紹介することによって、当時のことがらに対する理解を「視覚的」にたすけるものとする。						
到達目標	1. 重要な史実や人物の詳細と意義を説明できる。 2. 歴史に関連する文学や音楽、映像作品を実際鑑賞し、内容を把握するとともにその意義を説明できる。 3. 歴史から学ぶべきところ、学んではいけないところをきちんと理解し、その歴史観を用いて現代の問題を分析できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	西洋史の概要を事前に知っておくとよい。例えば、高校世界史の教科書・参考書、資料集を本講義の関連部分だけでも読んでおくことを薦める。もちろん、高校で世界史を履修していない学生もわたくしは大歓迎である。						
ディプロマポリシーとの 関連	【いわき明星大学のディプロマポリシー】						
	○	1. 幅広い教養と専門分野についての十分な知識を身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 人々の多様な考えやニーズを理解し、他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	3. 広い視野と判断力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態にも適切に対処することができる。					
		4. 地域社会の一員としての自覚をもち、地域に貢献できる社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
各時代の特徴を把握し、重要な出来事や人物、文化に関する基本的知識を身につける。	歴史の流れの中における出来事・人物・文学作品などに対して独自の見解を持ち、自主的に問題を提起する。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○	○				期末試験 60%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加		○	○	○			授業への積極度 40%

課題、評価のフィードバック	1. 試験問題や講義内容に関する質問や問題提起には随時対応し、説明する。 2. 期末試験の解答用紙は、要請があればいつでも開示できるよう準備しておく。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	イントロダクション:芸術作品における歴史	授業の進め方を説明するとともに、歴史と文化の関連の概説する。	
	第2回	古代ギリシアの歴史と文化 (1):ミケーネ文明	古代ギリシア文明の発端であるミケーネ文明について解説する。	
	第3回	古代ギリシアの歴史と文化 (2):文化としてのトロイ戦争	トロイ戦争をホメロスの叙事詩にもとづいて解説する。	
	第4回	古代ギリシアの歴史と文化 (3):ペルシア戦争	ペルシア戦争をトゥキュディデスの『戦史』にもとづいて解説する。	
	第5回	古代ギリシアの歴史と文化 (4):アテネの栄枯盛衰	古代ギリシアにおける華の都市、アテネの歴史を悲劇・喜劇・哲学とともに解説する。	
	第6回	古代ローマの歴史と文化 (1):2つのローマ建国史	ローマ建国をウェルギリウスの叙事詩などにもとづいて解説する。	
	第7回	古代ローマの歴史と文化 (2):共和政ローマ	共和政ローマの誕生を解説する。	
	第8回	古代ローマの歴史と文化 (3):カエサル	古代ローマで最も有名なカエサル(シーザー)を、彼の書いた本などにもとづいて解説する。	
	第9回	古代ローマの歴史と文化 (4):アウグストゥス	カエサルの後、ローマを支配したオクタウィアヌス(アウグストゥス)について解説する。	
	第10回	近代ヨーロッパの歴史と文化 (1):イギリス革命	イギリスに初めて起こった市民革命を、同時代のシェイクスピアの戯曲などとともに、解説する。	
	第11回	近代ヨーロッパの歴史と文化 (2):アメリカ独立	アメリカの独立戦争・独立革命を、同時代の音楽などとともに解説する。	
	第12回	近代ヨーロッパの歴史と文化 (3):フランス革命	フランス革命を、同時代の芸術作品とともに解説する。	
	第13回	近代ヨーロッパの歴史と文化 (4):ウィーン体制	ナポレオン、および、それ以降のヨーロッパ世界を、同時代の芸術作品とともに解説する。	
	第14回	近代ヨーロッパの歴史と文化 (5):ロシア革命	ロシア革命を、同時代の芸術作品とともに解説する。	
	第15回	まとめ	あらためて西洋の歴史と芸術作品をまとめて検討する。	
	試験	期末試験をおこなう。		
授業の進め方		プリントと視聴覚資料を併用して、講義形式でおこなう。適宜、質疑応答の時間をもうける。		
授業外学習の指示		配られたプリントや参考書を熟読する。また、授業で全体を紹介できなかった文学・音楽を読んだり、聴いたりしてみる。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	プリントを配付する。
参考書	秀村欣二 編『西洋史概説 第4版』東京大学出版会、1988年（本学図書館蔵）
参考URLなど	
その他	